平成１３年度第７回岡山市総合政策審議会保健･福祉部会における主要な意見

１　日　時　　平成１３年１２月２０日（木）１３：３０～１５：００

２　場　所　　ほっとプラザ大供　３階　第３研修室

３　出席者　　別紙委員名簿を参照（全員出席）

４　傍聴者　　３名

５　会議の概要

当部会における「市政の中期的な指針の中間答申」の肉付け審議をするために、事務局から「働き盛りの中核世代の幅広い福祉の充実」と「安心の子育て」という二つのテーマを切り口とする等の提案をし、保健福祉分野を中心とする本市の現状の一端を示す資料の説明をした後、自由に意見等をいただいた。

６　主要な意見

○　これからのまちづくりや福祉は、全て行政がやるということにはならない。民間営利企業だけでなく、ＮＰＯ法人の活動が非常に重要になってくるし、そういうＮＰＯ等が活発に活動する都市や町は、暮らしやすく、おもしろい町になっていく。

○　「中期的な指針」は、社会のありようを一つの形として見つけていこうとするものと思うが、個々の人生観や社会観によって随分異なってくるので、一つにまとめるのは大変なことだ。

○　岡山市だけでは解決できない問題が多いと思うが、岡山市として具体的にできることは小さなことでもやってもらいたいので、何かできることを見つけていきたい。

○　定年が延びれば、若い人に働くポジションが回ってくる可能性が小さくなり、雇用というところでは、高齢者と若い人が対極にある。

○　保育所の待機児童はゼロになったが、まだ、入所要件が厳しいままのようだ。システムができることとそれがうまく運用されることは全く別のことである。これは子育てに限らず、全てのことに言えるが、行政はハード部分の管理をし、システムがうまく機能しているかどうかまで現場で見届けることが重要である。常に現場で母親たちから聞いたことを施策に反映させ、一つ一つ解決していくしかない。

○　ＮＰＯとの連携は、「子育て」という部分ではとりやすい。

○　岡山の何社もの企業が非常に優れた福祉機器を岡山の技術で作っているが、それを一堂で見えるところがない。岡山産の優れた福祉機器が展示してあったり、どこが作っているかというような情報が手軽に得られるセンターが必要である。

○　障害児にかかる保育や児童クラブ、病児保育についても検討してほしい。

○　中核世代（２０～５０代）とリンクしないような子どものいない高齢者等の年齢層の福祉も置き去りにしないように。

○　延長保育等、働く親の側の福祉を優先するのではなく、子どもの側から見たときにどうかということを考えるべきである。

○　幼稚園の人気がなぜないのか考えてみてはどうか。幼稚園の時間を長くするとか、入園年齢を４～５才から３才に下げるとかすれば、人気が出てくるのではないか。障害児についても、社会経験のためには４才入園では役に立たない。